

令和3年度第1回 教育課程編成委員会

【日 時】令和3年7月15日（木）10：00～10：40

【場 所】こころ医療福祉専門学校壱岐校

【委 員】壱岐市社会福祉協議会副会長 品川 洋毅

壱岐市立老人ホーム所長 末永 文武

社会福祉法人博愛会特別養護老人ホームハッピーヒルズ（幸せの丘）

施設長 永田 信弘

こころ医療福祉専門学校壱岐校校長 後藤久志

こころ医療福祉専門学校壱岐校教育部

介護福祉科学科長 田島百合子

【事務局】中原 正和

- 議 題
- 1 教育方針
 - 2 経過報告及び今後の行事予定
 - 3 教育課程
 - 4 令和2年度学校自己評価結果
 - 5 その他

内 容

（1）教育方針

（配布資料にもとづいて、こころ医療福祉専門学校壱岐校教育理念について確認。）

事務局：中野前校長の「傍らに人あり」の精神を踏襲し、介護に必要な知識・技能を發揮するための「心」の育成。社会人としての基本的な習慣をしっかり身に付けさせる。時間を大切に、学校生活は2年間しかない。日々の頑張りが「顔晴(がんばれ)」となるように。壱岐島内の人口の減少、働き口がない状況での壱岐校の存在意義は大きい。

教育重点目標として、日本人学生の効率的な募集。壱岐で勉強できる強み、社会人や高等技術専門学校も含め目標10名。市内にもっと本校のことを宣伝する。日本人の国家試験及び進路決定率は100%。留学生に関しては、前年度2名国家試験に合格している。合格目標に、指導を徹底していく。

コロナの影響で、地域交流として運動会が縮小され参加できていない。11月の地域ボランティアには参加したい。

(2) 経過報告及び今後の行事予定

事務局：昨年12月に市内の介護施設職員に対し国家試験対策講座を実施。20名の参加があり、無料での国家試験対策補講も実施した。年明け1月元旦には、コロナ対策の緊急指導を留学生に対して行い、積雪による休校など、色々なことがあったが介護福祉士国家試験は無事受験できた。2月には施設実習及び後期試験の実施。3月8日に湯本事務所で卒業式を実施した。

進路についても、壱岐商業高校のガイダンスに参加。外国人に関しても、本校・佐世保校の日本語学科の説明会をリモートで実施した。

(3) 火災避難訓練・防犯教育

事務局：年度当初はコロナが落ち着いていたので、計画通りに壱岐消防署・壱岐警察署とそれぞれ相談し、避難訓練・安全安心防犯教育を実施することができた。津波発生時の避難場所については、壱岐のところに避難することを確認している。

(4) 令和2年度卒業生の進路状況

事務局：日本人学生の4名は壱岐市内の施設へ、他の留学生9名については長崎市、佐世保市、島原市の連携奨学金施設へ就職し、100%の就職率であった。

(5) 令和3年度入学生状況

事務局：4月2日第5回入学式を迎えることができ、日本人5名、フィリピン人9名の計14名の入学となった。4月5日より前期授業を開始した。昨年は中止したバスハイクを実施したが、留学生も非常に喜んでくれた。

(6) 地域行事への参加

事務局：新型コロナウイルス感染症の関係で、ほとんどの地域行事が中止となり、残念ながら、地域の方々との触れ合いの場を持つことができなかった。落ち着いてくればいろいろな方法でのコミュニケーションの場を設けたい。1月の介護の日の地域清掃は、計画通りに行うことができた。

委員：地域も学生との触れ合いを楽しみにしている。早く落ち着けばよい。

(7) 感染症対策

事務局：本校はアルバイト先が医療関に多い。したがって、本校から罹患者

を出さないように防止対策は万全を期している。担任の先生を通じて学生だよりによって注意喚起を行っている。また、壱岐島内の公立学校に市教委から出される予防対策を参考にしながら、市内にある学校を意識して取り組んでいる。

施設実習については、状況を見ながら施設と相談しながら、進めていく。

委員:我々関係施設も、できるだけ受け入れられるように協力する。

(8) 教育課程の変更

事務局:令和3年度から養成施設ルートが変更になった。『人間と社会分野』で「人間関係とコミュニケーション」30時間が60時間以上に変更。2年次の前期後期に振り分けている。介護実習については、450時間と決まっているおり、本校では3つに分けている。(参考資料)

(9) 卒業生の採用について

事務局:今年度も就職合同面談会を実施するように予定している。今のところ昨年度と同様10月に予定している。今年度は8名の日本人学生が在籍しているのので、壱岐市内での就職を期待している。

(10) その他

事務局:中学生は、壱岐校での学習内容や何のための学校なのかを知らない者が多い。結局は「壱岐のこころ」へ行くのかなあと思っている。オープンキャンパスも中学校まで下げて、選択肢として考えてもらいたい。中学生の中には、壱岐に残りたいしかし仕事がないから残れないと思っている生徒も多い。島外に出なくても壱岐にいて資格が取れる、そして働くところもあるということをもっとアピールしたい。

事務局:今の留学生は本当にまじめです。1人も辞めていない。

委員:アルバイトも真面目で、日本人学生も、本当に素晴らしい。

事務局:少しでも休んだら収入が減ってしまう。

委員:コロナがなければ良かったのに残念。

委員:卒業したレンも頑張っているが、言葉の壁があり、まだ夜勤は難しい。

事務局:日本語の補講も行っている。高齢者・お爺さん・お婆さんなど言い方がいっぱいあって難しいようだ。前後の言葉が分からないので難しい。

事務局:お年寄りが歩いていて、「利用者が歩いている」言ったりする。普段から勇気をもって話すのも大事なこともかもしれない。フィリピン人9人は同じ言語なので日本語

を使わなくても困らない。

委員:授業の仕方はどうなっているのか。

事務局:先生が何教科も教えるから大変です。どうしてもコロナの関係でリモート授業もするが、機材のトラブルもあつたり、コミュニケーションが取れなかつたりするので一方的な授業になってしまう。

委員:今は会議全てがオンラインになっている。

事務局:何をするにしてもリモート。それでもお金はもらう。現在コロナの影響で留学生が入国できない。来る予定の子が足止めされている。本校には、日本語科経由で入校するようになっている。学生の確保にも影響してくる。

委員:人材確保協議会でも、地元中学校のPTAに説明しようと考えている。

事務局:もっと多くの市民に本校のことを知ってほしい。保護者に働き掛けないといけない。高校3年生に説明しても遅い。中学の時に聞いたのをきっかけに、親に言う「自宅から通えて」「壱岐市からお金がもらえる」ということを理解してもらえる。

委員:人材確保支援金から、社協から2名給料をもらいながら通っている。

事務局:夏休みは学年別々の休みになっている。留学生のアルバイトも40時間可能。増えたアルバイト料からまとまった入金を行い、残ったら送金している留学生もいる。

委員:余分に持っけていても今は、使い道がないだろう。(どこにも行けない)

事務局:現地では1万円あれば、一月普通の家族が生活できると聞いている。留学生にとっても、日本人学生、職員にとっても学ぶことが多い。日本でうまく生活していけるように、文化・習慣に慣れてもらう。壱岐のいいところを感じながら、学んだことを恩返しして欲しい。苦情の電話もなく、学生たちのまじめな生活ぶりがわかる。日本人はやさしいので、積極的にコミュニケーションをとってもらいたいし、地域の皆さんにも積極的に声を掛けていただきたい。学校では学べないものを(バイト先や地域での生活の中で)学ばせてほしい。

以上もって

令和3年度第1回教育課程編成委員会・学校評価委員会を終了いたします。